

早苗打つ

山田真砂年

ガウデイの設計めきて羊蹄は  
作り滝スタバのカップ浮いてをる  
青蛙鳴き止まぬ辺に思案せり  
郭公を聞けば三時のおやつかな  
手づかみで食ふ山女魚の歯ちくちくす  
南無南無と仏の前に蚊の来たり  
むかし男ありけり更衣へにけり  
牡丹の影のぬばたま底知れず  
ヒューヒューと息吸う音や鯉幟  
新樹光サラリーマンはため息す  
芍薬も薔薇も蟻這ふところなり  
鉄線の路地は風抜けやすきかな  
野仏に十円玉や余花の径  
新緑のうちかさなりて陰生まる  
アカシアの花の盛りを浅間噴く  
緑陰に美味しうましと水飲めり  
菖蒲田やささやくこゑのただよへる  
田を植ゑてにぎやかな列並びをる  
早苗打つ顔に歓喜の泥の粒  
余り苗浅間はうすく煙噴く  
ずずずいと田に踏み込めり早苗植う  
菖蒲葺き風の明るき庵かな  
東京と匂ひの違ふ街薄暑  
捕虫網パパの呼ばれてをりにけり  
目高売る山の奥なる道の駅